

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 30 年度 第 3 号 2019 年 1 月 30 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

平成 30 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（3 次調査）結果

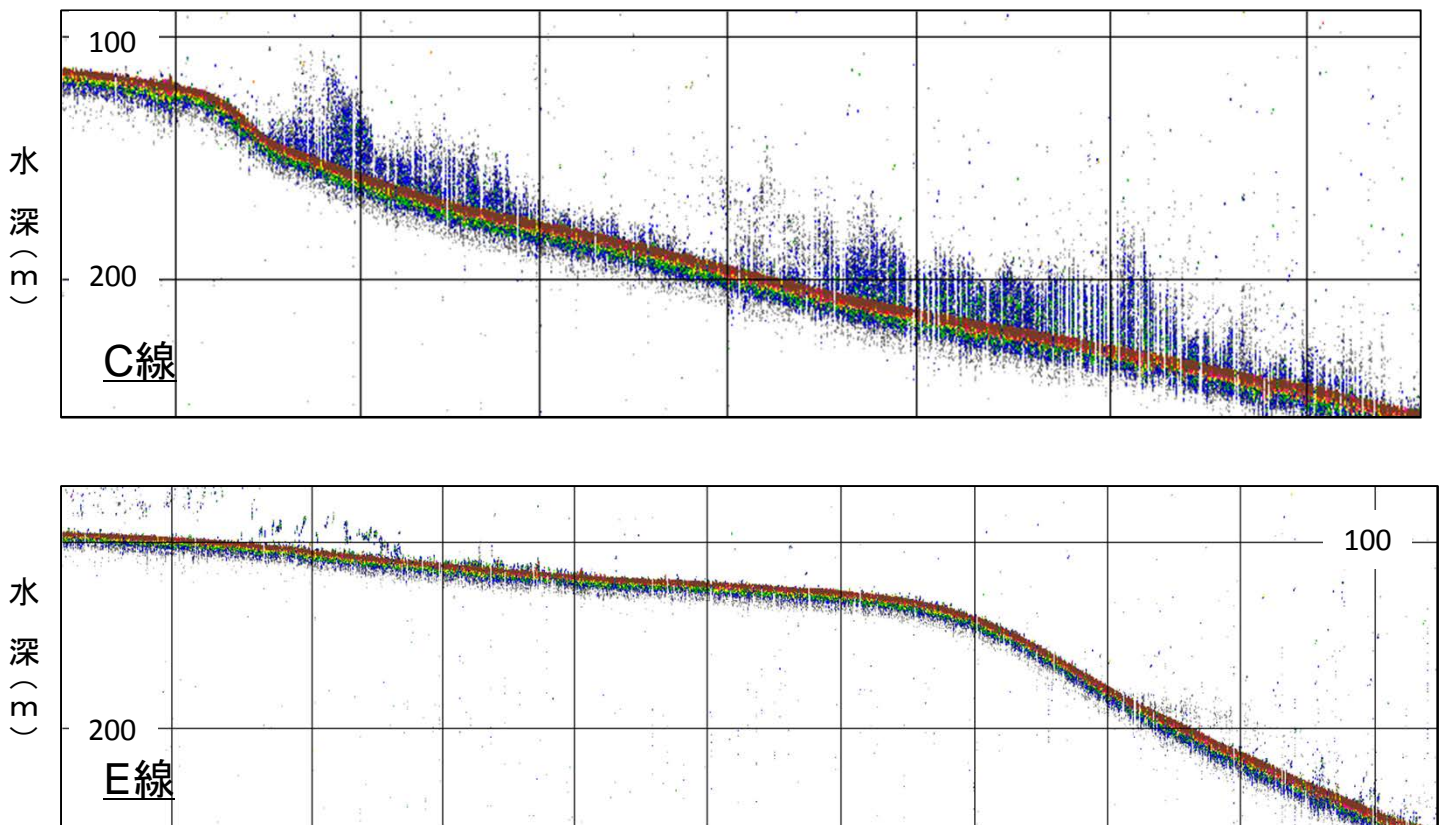
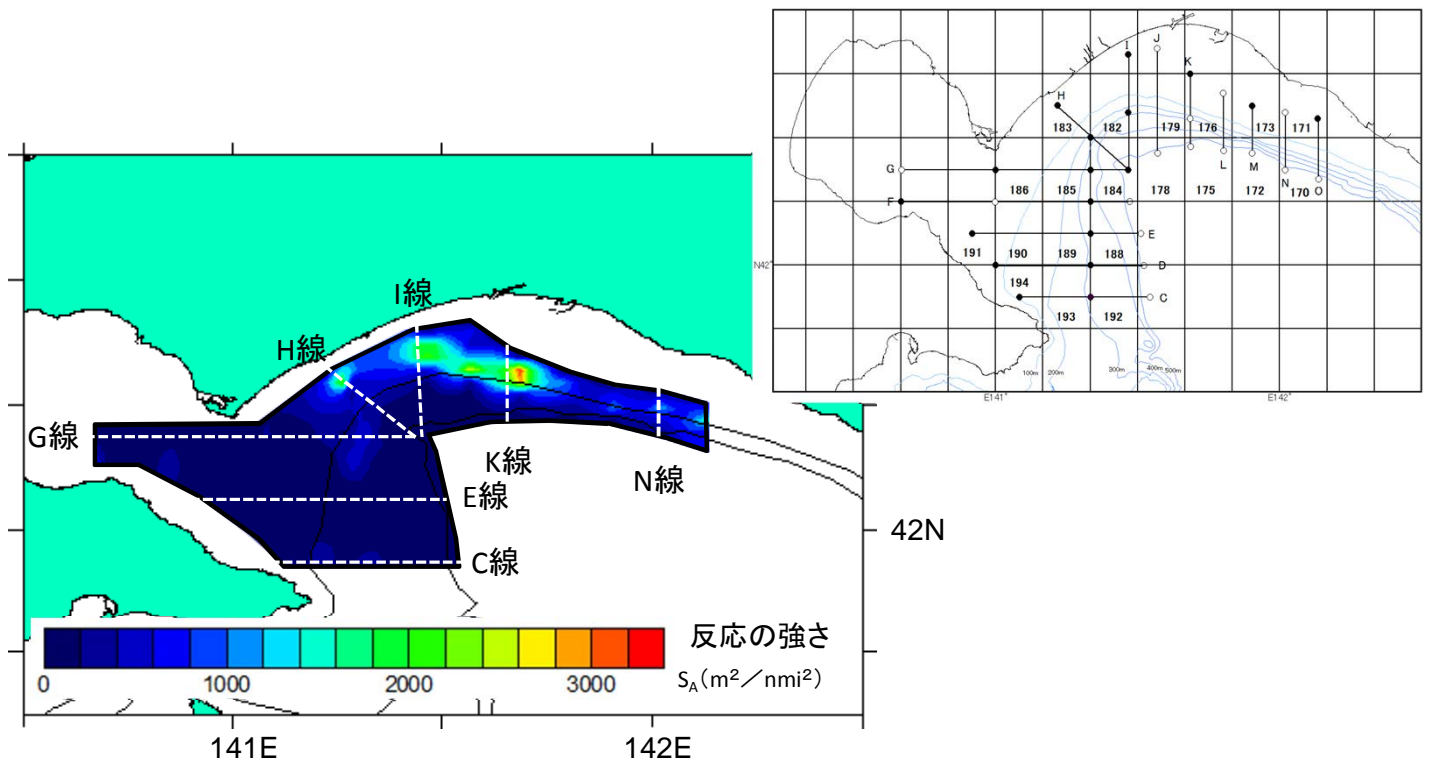
函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2019 年 1 月 18～22 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 50～500m の海域（図 1 右上）

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期は上回ったが、調査を開始した 2004 年度以降では 2 番目に低い値であった。
- ・ 魚群反応のやや強い海域は白老～苫小牧沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 100m 付近。
- ・ 水深 230m で着底トロールを行った結果、漁獲されたスケトウダラは未成魚が主体であった。

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から胆振海域にかけて分布していましたが、その中でも白老沖から苫小牧沖にかけてやや強い反応がみられました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、3 次調査を開始した 2004 年度（調査は 2005 年 1 月）以降で最低値となった昨年度は上回ったものの、過去 2 番目に低い値となりました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 100～500m の広い範囲で観察されました。その中でも水深 90～110m 付近にやや強い反応がみられました（図 2・4）。なお、水深 200m 以深にも反応がみられましたが、水深 230m 付近で実施した漁獲物調査（トロール調査）の結果では、漁獲物に未成魚が多かったことから、魚群反応には未成魚が含まれているものと考えられます。
4. 渡島沖（C 線付近）の水深 230m 付近と胆振沖（K 線付近）の水深 90m 付近で着底トロールによる漁獲調査を行った所、渡島沖で漁獲されたスケトウダラは尾叉長 12cm、30cm 前後、39cm、42cm にモードがみられる多峰型の組成となっていました（図 5）。成熟状態を調べた結果、オス、メスともに生殖腺が未熟の未成魚が主体となっており（図 6）、尾叉長 40cm 以上のスケトウダラは成魚主体でしたが、それ以外は未成魚が主体で、とくに尾叉長 30cm 以下のスケトウダラはすべて未成魚でした。なお、胆振沖のトロール調査では、魚群反応が海底から浮いていたこともあり（図 2）、スケトウダラはほとんど漁獲されませんでした。

今年度のスケトウダラニュースは本号で終了となります。



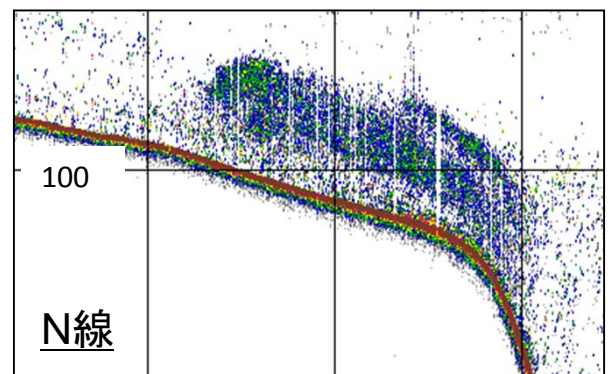
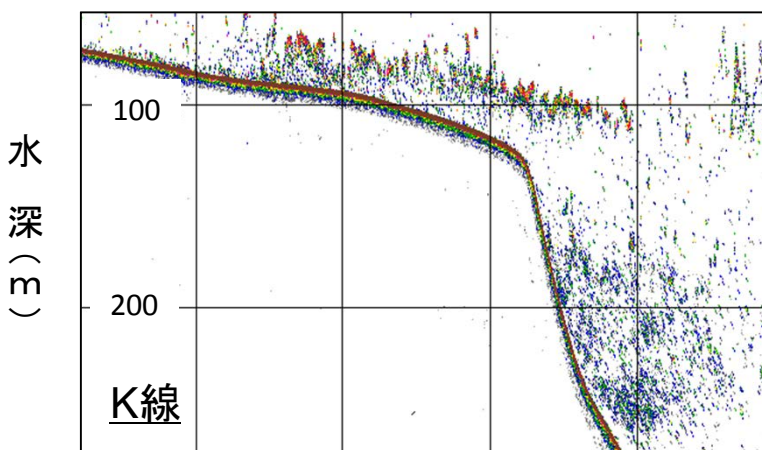
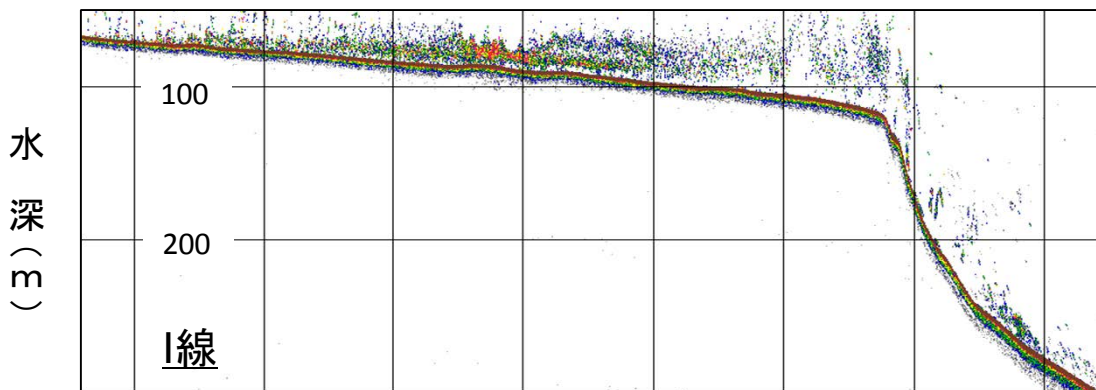
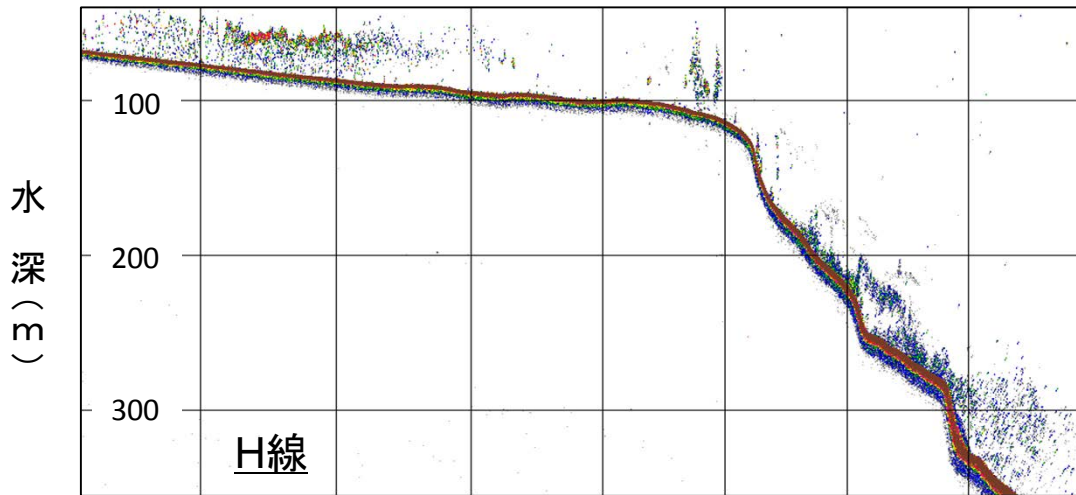
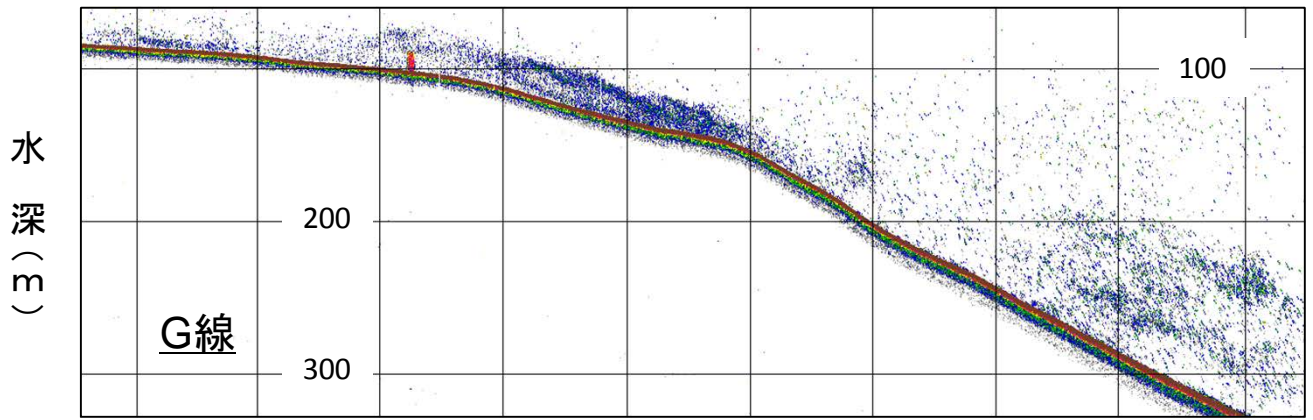


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

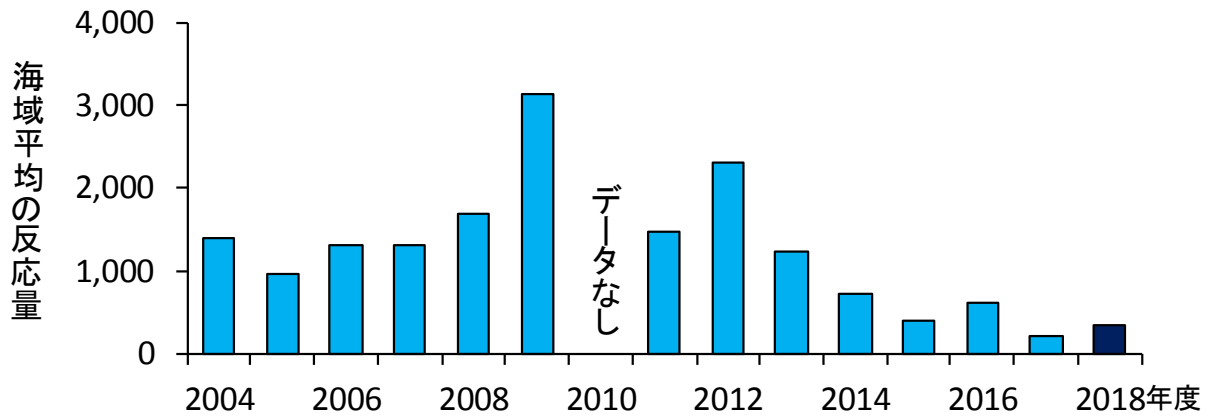


図3 調査海域における魚探反応量の推移

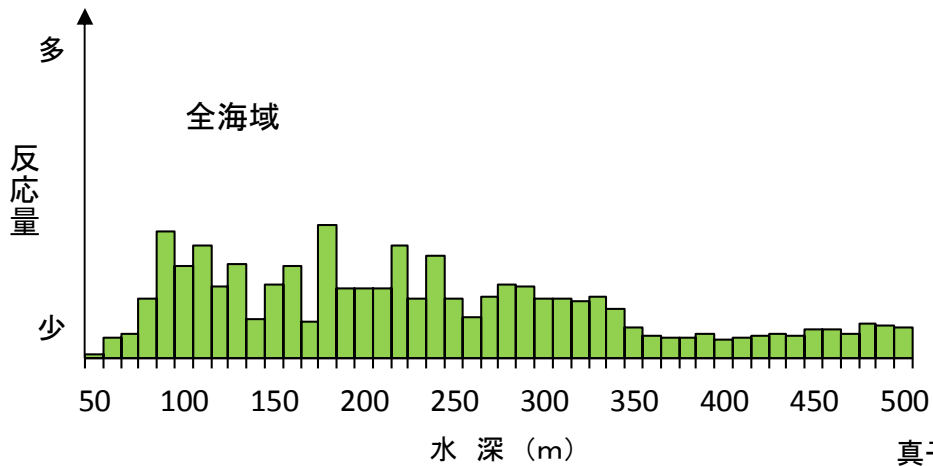


図4 水深別の魚探反応量

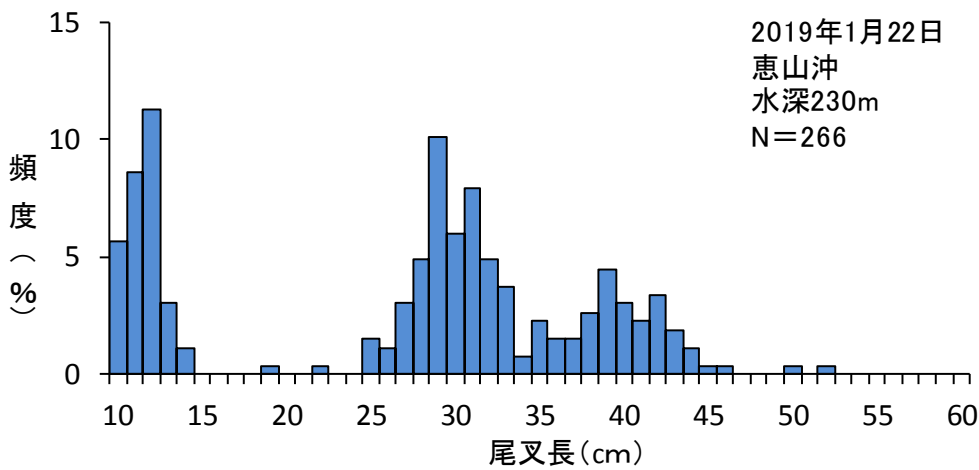


図5 漁獲物の体長組成

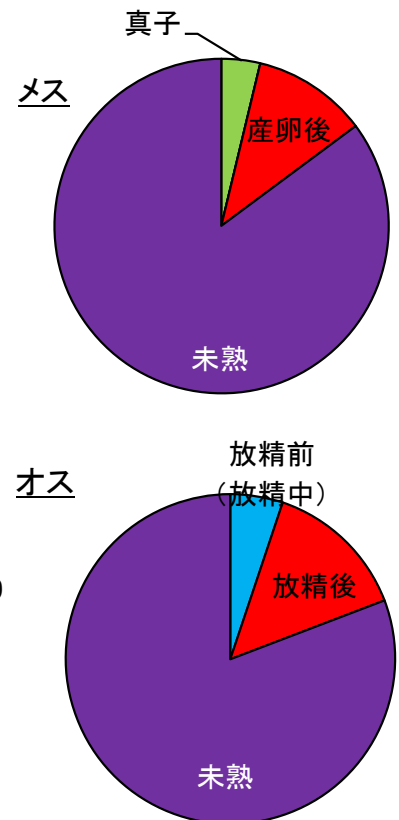


図6 漁獲物の成熟状態
上:メス, 下:オス